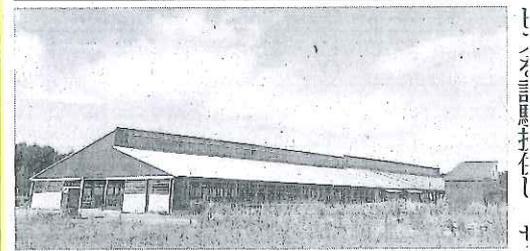


TYPE OF INDUSTRY

畜産農家への経営コンサルティング事業を始める。クラウド牛群管理システムのユーザーに経営状態を整理し見える化するレポーティングサービスを提供。この経営指標をもとに経営課題などを分析して助言する。管理システムに経営コンサルを加えることで、畜産で稼ぐ方法論を広げる。

レポーティングサービス

ファームノートではデータから畜産農家の牛の妊娠頭数や発情時 重要業績評価指標（KPI）を算出して経営一元管理できる。この課題を見える化する。



例えば乳牛は乳量や乳成分、繁殖成績、肉牛は1日平均の体重増加量や出荷単価などから牛ごとの生産性を見える化できる。ここからKPIを計算して牧場としての経営状態を明らかにする。KPI

ファームノートの次世代牛舎（同社提供）

9月小規模企業景気動向調査

売上高	¥54.9 (6.9)
採算	¥51.8 (7.8)
資金繰り	¥52.5 (5.8)
業況	¥55.4 (7.7)

カッコ内は前月比増減ポイント、▼はマイナス

全国商工会連合会がまとめた9月期の小規模企業景気動向調査（速報）によると、産業全体のDI（景気動向指標）は全4指標が4カ月連続で改善した。特に「GOTOキャンペーン」の効果などで回復が遅れていたサービス業は各指標2ケタから水準はコロナ前水準に回復した。採算DIは8.3、業種別に見ると、製造業は大手自動車メーカーの生産回復を受けて機械・金属関連も生産回復。業況DIが5.6、売上高DIは6.2、採算DIは7.7、資金繰りDIが6.9の大幅上昇。建設業も回復基調が加速。業況DIが9.0、売上高DIと採算DIは8.3、

サービス業大幅改善

9月景況「GOTO」など効果

全国連

事業承継 ストーリー

⑦

難加工請け負

日成工業（川崎市中原区）は、樹脂と金属の微細加工で試作品や高付加価値の部品製造を請け負う。アルバイト含め従業員わずか5人の町工場だが、半導体や医療、食品関係の最先端分野からの受注が絶えない。

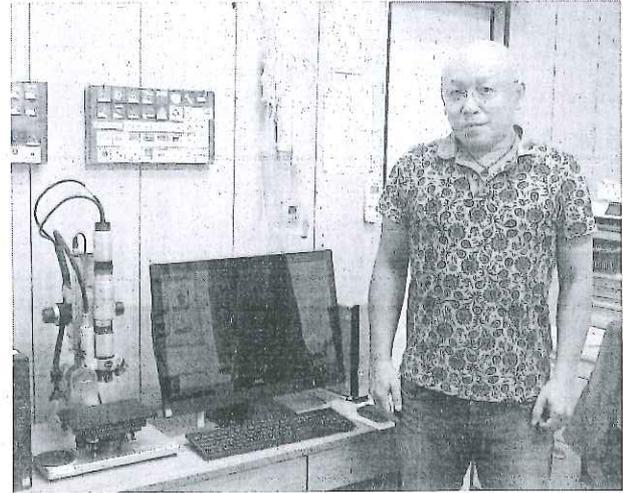
その理由は他の企業が嫌がる、難しい加工を請け負うこと。創業時から技術を基盤に、規模は小さくとも中身の濃い会

日成工業

息子の野田宜志氏は大卒卒業後、98年に証券会社に入社。営業の得意先に「できる人は自営業でもサラリーマンでも成功する」と言われ、家業に興味を持ち始めた。

高精度機器導入

当時の日成工業は同業他社がマシンニングセンター



今後は技術がある10人以下の中小企業が生き残ると野田社長は考えている

規模小さくとも、中身濃く

社を追求している。東京都内の樹脂加工会社で働いていた野田照男氏（現会長）が独立し、1978年に創業。アクリル板をバフ研磨せず、切削から精度の高い仕上げまで可能な技術力が強みで、医療関係のモックアップの製造などに携わってきた。

「受注が厳しい状況。宜志氏は01年にマシンニングセンターとCAD/CAM（コンピュータ利用設計・製造）の導入を条件に、同社へ入社。「負けず嫌いのため、遅れを取り戻す素人だからこそ限界が分かつた。現在は、最小加工サイズは200μm（マイクロメートル）の100万分の1、角、寸法公差は5μm（マイクロメートル）を実現する。モノづくりの技術も知識も一から本などで勉強。またこれらの高精度な仕事をもらうため営業結果を補うために、マイクロスコープや3次元形状測定器など高精度な検査設備を積極投入。顧客が求める品質を追求し続

けた結果、口コミで評判は広がり、多くの大手企業から引き合いが来ている。

無心に技術磨く

昨今の事業承継問題について「資産が多すぎて負債が多く、清算ができずに、最終的にM&A（合併・買収）を選ぶ企業が多い」と宜志氏は分析する。息子の意思がなければ、承継は考えておらず、継ぐ場合も、黒字での承継が絶対条件。拡大せず、創業時からの技術を無心に磨き続けた割り切った経営で企業価値を高める。

08年には5軸マシンニングセンターを投入し、微

（川崎・大串菜月）
（火曜日に掲載）

中小・ベンチャー・中小政策